

「高度かつ専門的な医療と温かみのある医療サービスの提供で、能登全域の住民の健康を守ります。」



センター長のごあいさつ

2023年も活発な連携をいただきありがとうございます。コロナとの付き合い方など状況も変わる中、慎重にできる範囲で、地域の皆さまとの「顔の見える・声の聞こえる関係」の構築を図りました。2024年もさらに活発な連携を行っていきたく思っております。

今後とも紹介・逆紹介の充実、ご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

皆様どうぞ 良いお年をお迎えください。

地域医療支援センター長 山端 潤也

選定療養費 が 変わります！

令和6年1月1日（月）より、

- ・選定療養費の金額が高くなります。
- ・紹介状を持参することで、選定療養費の負担が軽減されます。

令和6年1月1日より

初診	内科	7,700円(税込)	再診	内科	3,300円(税込)
	歯科	5,500円(税込)		歯科	2,090円(税込)

対象となる患者さま

初診: 紹介状なしで当院を受診される初診の患者さま

再診: 当院の医師から他の医療機関へ紹介したにも関わらず、当院を受診される患者さま



ご紹介される際には、紹介状の作成及び上記変更を患者さんにお伝えくだされば幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

小児科休日当番日のご案内

1月	1,2,8	2月	4,23
3月	31	4月	21

脳神経外科輪番日のご案内

1月	1,2,3,7,8,13,20,21,27
2月	3,4,10,12,17,18,24,25
3月	2,9,10,16,20,23,24,31

最近の TOPICS



今年度も10月の臓器移植普及月間に合わせて、病院入口や遊歩道をグリーンライトで照らしました。



人生会議の啓発

11月30日「人生会議の日」に併せて、啓発活動を行いました。11月28日から12月1日の4日間、正面玄関にて啓発動画を映し、「まいのーと」等の意思表示ツールを配置しました。

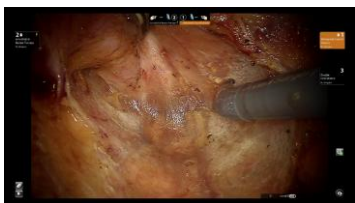




いつも患者さんをご紹介くださり有難うございます。

当院では直腸癌の患者さんに、手術支援ロボット「ダビンチ」を使用して手術を行っています。開始当初は適応を限定して手術を行っていましたが、現在は適応を拡大し、対応可能なすべての患者さんを対象に行っています。2021年9月に開始し、2年2カ月間で28例の手術を行いました。ここまでこれたのは、ひとえに、当院を支えてくださる先生方のおかげと思っています。本当に、ありがとうございます。

今回は、ダビンチで行うメリットについてお伝えしたいと思います。



(図①) 鉗子の先端を右側に屈曲させながら切開しているところ。



(図②) 上に見える補助鉗子で前立腺を引き上げ、下に見える鉗子で直腸を下に押し下げ、両者の間を切開しているところ。

直腸癌の手術においては、右のようなメリットが挙げられます。これらにより、より繊細な手術が可能となります。それにより、根治性・機能温存の向上が期待されます。

現在、泌尿器科の方でもダビンチを使用した手術を行っており、来年度は、機種種の更新を行う予定です。

興味のある方がいらっしゃいましたら、まずはご一報ください。また、内視鏡検査でS状結腸癌と思われる患者さんでも、ロボット手術の適応となる場合がありますので、ご連絡いただければ幸いです。

先生方や地域の皆さんのお役に立てるよう、今後も励んでいく所存でおります。今後ともよろしくお願ひいたします。

ダビンチによる手術のメリット

骨盤内がよく見えます！

骨盤内にスコープが入り込み、開腹手術では見にくい骨盤の中、直腸周囲がよく見えます。

鉗子の先端が手首のように曲がります！

直腸は円柱のような形をしています。まっすぐな腹腔鏡の鉗子では、この局面に合わせて剥離・切離するには限度があります。ダビンチの鉗子は手首のように曲がるため、この曲面に合わせて剥離・切離することが可能です(図①)。

手振れが全くありません！

腹腔鏡手術では、目標点まで鉗子をもっていき、先端でつまもうとすると、必ず鉗子の先端に揺れ(手振れ)が生じます。ダビンチではこの手振れがないため、最短距離で移動しスピーディーにつまむことができます。これにより、血管や神経の周りでも、安心して、数mm単位で組織を把持・切離することができます。

一度固定した補助鉗子は動きません！

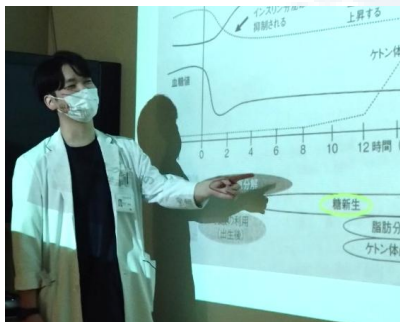
ダビンチには、左右の鉗子以外に補助鉗子が1本あり、この補助鉗子を助手のように使用します。直腸癌の手術では、補助鉗子で前立腺や膣を牽引して固定します。ほかの手術では、少しずつ手や鉗子がずれて術野が崩れてしまうことがあるのですが、ダビンチでは、一度固定すると動かないため、術野が崩れません。これにより、前立腺や膣から直腸を剥離することが、腹腔鏡手術より容易となります(図②)。

研修医のひと言

研修医 竹中 亮太


公立能登総合病院研修医1年の竹中亮太です。

今年の4月から、約8ヶ月の研修生活を過ごしてみて、率直に感じたことを綴らせていただきます。私はかほく市の高松出身で、七尾高校を卒業後、金沢大学医薬保健学域医学類石川県特別枠で入学し、2023年3月に卒業しています。



七尾には、母の実家があり、幼少期から何度も訪れる機会がありました。高校進学時も、ともに七尾高校出身の母と兄の影響を受けて、金沢の高校ではなく七尾高校を選択しました。

それ故に七尾は自分にとって第二の故郷のような場所であり、現在は七尾での生活を楽しく過ごしています。

つい先日、幼少期から母方の祖父母によく連れられて行っていたお寿司屋さんに行きました。そこで大将は、「大きな病院が二つもあり(公立能登総合病院と恵寿病院)、何かあったとしても心強いわ。」と言います。現在小児科をローテートしておりますが、開業医からの紹介で受診される子供の稀な疾患や緊急疾患などを経験させて頂いております。能登地区の高齢化率は20年先の日本の高齢社会を反映していると言われておりますが、まさにその中で、開業医と二次、三次病院の連携を実感し、地域の特色に応じた医療体制が整っているという印象を受けます。地元の人々が安心して暮らせるこのような医療体制があってこそこの大将の言葉であったと思います。

私自身、特別枠ということもあり、今後も七尾をはじめ能登北部での医療に関与できることを誇りに、これからも日々精進していきたいと思っております。

